

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成26年8月11日

【四半期会計期間】 第38期第1四半期(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

【会社名】 カネソウ株式会社

【英訳名】 KANESO Co.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 近藤 健治

【本店の所在の場所】 三重県三重郡朝日町大字縄生81番地

【電話番号】 059(377)4747(代表)

【事務連絡者氏名】 専務取締役管理本部長 南川 智之

【最寄りの連絡場所】 三重県三重郡朝日町大字縄生81番地

【電話番号】 059(377)4747(代表)

【事務連絡者氏名】 専務取締役管理本部長 南川 智之

【縦覧に供する場所】 株式会社名古屋証券取引所  
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第37期 第1四半期 累計期間	第38期 第1四半期 累計期間	第37期
会計期間	自 平成25年 4月1日 至 平成25年 6月30日	自 平成26年 4月1日 至 平成26年 6月30日	自 平成25年 4月1日 至 平成26年 3月31日
売上高 (千円)	1,531,583	1,704,588	7,782,273
経常利益又は経常損失( ) (千円)	1,556	51,522	446,468
四半期(当期)純利益 (千円)	294	30,278	269,631
持分法を適用した 場合の投資利益 (千円)			
資本金 (千円)	1,820,000	1,820,000	1,820,000
発行済株式総数 (株)	14,400,000	14,400,000	14,400,000
純資産額 (千円)	13,575,036	13,756,444	13,737,474
総資産額 (千円)	15,467,928	15,680,158	15,876,797
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	0.02	2.13	18.94
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)			
1株当たり配当額 (円)			15.00
自己資本比率 (%)	87.8	87.7	86.5

- (注) 1 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 4 持分法を適用した場合の投資利益につきましては、関連会社がないため記載を省略しております。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

当社は、「第4 経理の状況 1 四半期財務諸表[注記事項]（セグメント情報等）」に記載のとおり、単一セグメントであるため、財政状態及び経営成績の分析は製品分類別に記載しております。

#### (1) 経営成績の分析

当第1四半期累計期間における国内経済は、消費税増税による一時的な落ち込みが見られましたが、経済政策や金融政策の効果による企業収益や雇用情勢の改善から景気は緩やかな回復基調が続いております。一方で材料価格等諸物価の上昇や海外情勢の懸念も広がり、依然として先行きは不透明な状況で推移しました。

このような状況の中で建設関連業界におきましては、公共事業の改善基調が続いており、民間建設、及び設備投資も回復の兆しが見られるなど全般に改善傾向にあります。その結果、売上高は17億4百万円(前年同四半期比11.3%増)となりました。製品分類別における状況は次のとおりであります。鋳鉄器材はマンション等建築が堅調なことから排水関連製品が増加し、設備資材関連製品も増加したことから、5億50百万円(同7.2%増)となりました。スチール機材は設備工事関連製品がやや改善したものの全般に低調なことから、2億71百万円(同9.7%減)となりました。製作金物は建築、及び外構関連製品が改善したこと、防災関連製品の納入が伸びたことから、7億48百万円(同27.8%増)となりました。その他は建機、機械向け製品が海外需要等市場環境の回復が遅れていることから、1億33百万円(同1.9%増)となりました。

利益につきましては、材料価格等が上昇基調にあり、受注価格は厳しい状況が続いていることから、コスト環境は厳しいままにあります。その中で需要の改善から生産増につながり、売上総利益は5億52百万円(同10.2%増)となりました。販売費及び一般管理費も販売改善にともなう諸経費は増加しましたが、営業利益は68百万円(同620.7%増)となりました。営業外収支につきましては金利が低位な状況から、改善には至りませんでした。その結果、経常利益は51百万円(前年同四半期は1百万円の経常損失)となり、四半期純利益は30百万円(前年同四半期は0百万円)となりました。

## (2) 財政状態の分析

当第1四半期会計期間末の財政状態は、総資産は前事業年度末に比べ1億96百万円減少し156億80百万円となりました。

流動資産は、前事業年度末に比べ4億7百万円増加し122億44百万円となりました。その主な要因は、受取手形及び売掛金が1億90百万円減少しましたが、現金及び預金が1年以内満期の定期預金の増加等により3億88百万円、たな卸資産が仕入の増加等により2億27百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。

固定資産は、前事業年度に比べ6億4百万円減少し34億35百万円となりました。その主な要因は、長期預金が5億5000百万円減少したこと等によるものであります。

負債は、前事業年度末に比べ2億15百万円減少し19億23百万円となりました。その主な要因は、材料仕入の増加等により買掛金が62百万円増加しましたが、未払法人税等が1億60百万円、退職給付引当金が1億39百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

純資産は、前事業年度に比べ18百万円増加し137億56百万円となりました。その主な要因は、利益剰余金が前事業年度の配当金の支払が1億6百万円ありましたが、四半期純利益の計上が30百万円、会計方針の変更による増加が92百万円あったことにより16百万円増加したこと等によるものであります。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

## (4) 研究開発活動

当第1四半期累計期間の研究開発費の総額は7百万円であります。なお、当第1四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年8月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	14,400,000	14,400,000	名古屋証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は1,000株であります。
計	14,400,000	14,400,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年4月1日 ～平成26年6月30日		14,400,000		1,820,000		1,320,000

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成26年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 161,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,232,000	14,232	
単元未満株式	普通株式 7,000		
発行済株式総数	14,400,000		
総株主の議決権		14,232	

【自己株式等】

平成26年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) カネソウ株式会社	三重県三重郡朝日町大字 縄生81番地	161,000		161,000	1.11
計		161,000		161,000	1.11

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期会計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)及び第1四半期累計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目からみて、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準及び利益剰余金基準による割合は次のとおりであります。

資産基準	0.38%
売上高基準	0.03%
利益基準	0.23%
利益剰余金基準	0.47%

## 1 【四半期財務諸表】

## (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成26年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,180,529	9,568,962
受取手形及び売掛金	1,611,584	1,420,589
製品	461,383	586,816
仕掛品	92,728	134,279
原材料及び貯蔵品	425,252	486,101
その他	65,552	48,187
貸倒引当金	485	427
流動資産合計	11,836,544	12,244,509
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,733,768	1,733,768
その他(純額)	1,179,813	1,170,316
有形固定資産合計	2,913,581	2,904,084
無形固定資産	3,296	3,091
投資その他の資産		
投資有価証券	68,736	72,861
その他	1,066,638	467,611
貸倒引当金	12,000	12,000
投資その他の資産合計	1,123,374	528,473
固定資産合計	4,040,252	3,435,648
資産合計	15,876,797	15,680,158
負債の部		
流動負債		
買掛金	327,303	390,290
未払法人税等	164,487	4,379
賞与引当金	51,948	19,794
その他	219,605	267,670
流動負債合計	763,344	682,135
固定負債		
退職給付引当金	383,560	244,063
役員退職慰労引当金	389,122	393,290
その他	603,294	604,223
固定負債合計	1,375,977	1,241,578
負債合計	2,139,322	1,923,713



(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成26年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,820,000	1,820,000
資本剰余金	1,320,000	1,320,000
利益剰余金	10,649,943	10,666,223
自己株式	69,241	69,241
株主資本合計	13,720,701	13,736,982
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	16,772	19,462
評価・換算差額等合計	16,772	19,462
純資産合計	13,737,474	13,756,444
負債純資産合計	15,876,797	15,680,158

(2) 【四半期損益計算書】  
【第1四半期累計期間】

	(単位：千円)	
	前第1四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	1,531,583	1,704,588
売上原価	1,030,031	1,151,979
売上総利益	501,551	552,609
販売費及び一般管理費	492,054	484,165
営業利益	9,496	68,443
営業外収益		
受取利息	4,847	2,942
受取配当金	1,012	1,091
不動産賃貸料	4,828	4,677
その他	1,414	1,079
営業外収益合計	12,102	9,791
営業外費用		
支払利息	4,374	4,430
売上割引	17,141	17,297
その他	1,638	4,986
営業外費用合計	23,155	26,713
経常利益又は経常損失( )	1,556	51,522
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失( )	1,556	51,522
法人税、住民税及び事業税	1,849	1,724
法人税等調整額	3,700	19,519
法人税等合計	1,850	21,243
四半期純利益	294	30,278

【注記事項】

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当第1四半期会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法についても、従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第1四半期会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第1四半期会計期間の期首の退職給付引当金が142,338千円減少し、利益剰余金が92,790千円増加しております。また、当第1四半期累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(四半期損益計算書関係)

前第1四半期累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)及び当第1四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

当社の売上高は、第3四半期会計期間以降に受注が増加するため、第1四半期会計期間の売上高が他の四半期会計期間と比較して少なくなる傾向にあります。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
減価償却費	42,454千円	38,929千円

(株主資本等関係)

前第1四半期累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	106,790	7.50	平成25年3月31日	平成25年6月28日

当第1四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	106,788	7.50	平成26年3月31日	平成26年6月30日

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、建築・福祉・緑化・都市景観整備関連製品の製造及び販売をその事業としており、単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は次のとおりであります。

項目	前第1四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	2銭	2円13銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	294	30,278
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	294	30,278
普通株式の期中平均株式数(千株)	14,238	14,238

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 8 月 8 日

カネソウ株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大 中 康 宏 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 内 山 隆 夫 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているカネソウ株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第38期事業年度の第1四半期会計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)及び第1四半期累計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、カネソウ株式会社の平成26年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。